

実績報告書

届出者	住所	大阪府泉南郡熊取町野田1丁目1番1号	氏名	泉南郡熊取町 熊取町長 藤原 敏司
特定事業者の主たる業種		98地方公務		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		地方自治体公務		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間				
2019 年	4 月	1 日	～	2022 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2018)年度	前年度(2019)年度
温室効果ガス総排出量	8,533 t-CO ₂	8,682 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,224 t-CO ₂	9,365 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2021 年度)	第1年度 (2019 年度)	第2年度 (2020 年度)	第3年度 (2021 年度)
選択	レ	4.6 %	-1.8 %	%	%
		%	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		4.6 %	-1.6 %	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>2019年度のエネルギー総使用量は、基準年度となる2018年度と比べ約4.6%(約4,700GJ)削減できたが、非エネルギー起源CO₂による温室効果ガスの排出量の増により削減率が-1.8%となっている。この主な要因については、2018年度の土砂災害によりゴミ焼却場が利用不可となり、近隣市町に焼却依頼をした期間が約1カ月程度続き、2018年度の基準値自体が通常より少ない値となっているため2019年度以降が通常の値であっても非エネルギー起源CO₂による温室効果ガスの値が増となってしまっている。</p>
--

(2) 推進体制

<p>本町では、「熊取町地球温暖化対策推進委員会設置要綱」に基づいて、計画の実施・運用を行うために推進責任者に対して取組み内容についての評価及び指導をする権限を有する「総括推進責任者」を配置するとともに、各課における計画推進の中心的な役割を担う推進員への研修を進めるなど、本計画の実効性をより確実なものとなるように取り組んでいく。</p>

実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市中区深阪一丁2番2号	氏名	くら寿司株式会社 代表取締役 田中 邦彦
特定事業者の主たる業種		76飲食店		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		回転寿司チェーン「無添 くら寿司」の経営		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2019年	4月	1日	～	2022年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2018)年度	前年度(2019)年度
温室効果ガス総排出量	11,537 t-CO ₂	13,834 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	12,993 t-CO ₂	15,695 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2021年度)	第1年度 (2019年度)	第2年度 (2020年度)	第3年度 (2021年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ 削減率(原単位ベース)	3.0%	-14.3%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0%	-15.1%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(大阪府内の店舗の延床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>2019年度の削減率は目標の3%は未達となりましたが、今後も省エネに務めてまいります。目標未達の原因は、電力会社の切替に伴う、CO2排出係数の増加です。</p>

(2) 推進体制

<p>エネルギー管理統括者、エネルギー管理企画推進者が中心となり、日頃より省エネを図る方法を考察しております。導入可能な省エネ機器の検討や、電力監視システムを用いた電力消費の傾向の分析、事務所・店舗での空調設定温度やクールビズの周知などを行っております。新たな取り組みとして、空調機器のリモコン設定(スケジュールタイマー、温度設定自動復旧、自動運転切替)を行いました。</p>
--

実績報告書

届出者	住所	〒577-0807 大阪府東大阪市菱屋西6丁目2番23号	氏名	グラフィックアーツ大阪株式会社 代表取締役 蛸澤 剛
特定事業者の主たる業種		15印刷・同関連業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に商業印刷の企画、生産		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2019年	4月	1日	～	2022年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2018)年度	前年度(2019)年度
温室効果ガス総排出量	4,562 t-CO ₂	4,323 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,017 t-CO ₂	4,772 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2021年度)	第1年度 (2019年度)	第2年度 (2020年度)	第3年度 (2021年度)
選択	レ	3.0%	5.3%	%	%
		%	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0%	4.9%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

一部、空調機の入れ替えを実施。コロナウィルスによる作業の減少。

(2) 推進体制

省エネ対策組織の見直し。

実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区北浜2-2-22 北浜中央ビル	氏名	栗田工業株式会社 大阪支社 執行役員大阪支社長 大須賀 達博
特定事業者の主たる業種		32その他の製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>1949年に創業。「水と環境」の分野で事業展開。水処理のリーディングカンパニーとして、公害などの社会問題、環境問題と向き合い、あらゆる産業の水に関わる課題解決に携わってきました。これまでに蓄積されたノウハウから水処理薬品、水処理装置及びメンテナンスサービスという商品や技術を結集し、水処理を通して新たな価値を創造し、社会的課題に対しソリューションを提供し続けています。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2019年	4月	1日	～	2022年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2018)年度	前年度(2019)年度
温室効果ガス総排出量	26,376 t-CO ₂	27,552 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	28,859 t-CO ₂	30,287 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2021年度)	第1年度 (2019年度)	第2年度 (2020年度)	第3年度 (2021年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ	3.0%	9.2%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0%	8.7%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(純水供給量(m ³))
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>昨年度は、原単位の分母となる純水供給量の増加ほどにはエネルギー量が増加せず原単位が改善された。施策としては好気処理を行う硝化槽で原水負荷に合わせた低DO運転かつ運転調整自動化を行い、ブロワの電力使用量を削減する取り組みを実施している。また、本施策は今年度も継続して取り組む。</p>
--

(2) 推進体制

<p>エネルギー使用量の削減については、上述の原単位で年間1%以上の削減を目標に定め、マネジメントプログラムにそって活動を進める。尚、マネジメントプログラムはグリーンフロント堺内のシャープ様の一部門として取得しシャープ様の活動と一体となって取り組む。堺駐在所においては、毎月の経費削減会議により、エネルギー使用量の削減を図る。</p>
